

## 研究テーマ「平和・人権教育と国際連帯の広がりをめざして」

### I 研究の内容

#### 1 研究の方法

- (1) 部員各自の実践報告
- (2) 情報交換，情報提供による学習，臨地研修
- (3) 授業提案による研究（統一授業研）

#### 2 研究経過

5月 6日	研究組織，研究テーマ，研究内容・方向性について検討
5月18日	研究計画決定，情報交換，授業者決定
6月 1日	実践報告，授業案検討
8月 1日	授業案検討 臨地研修「春日居郷土館」（笛吹市）
8月31日	研究授業
9月28日	実践報告 県教研レポート検討
11月30日	実践報告 県教研還流報告
1月11日	実践報告 授業案検討
2月 8日	研究授業（実践報告）
2月15日	研究のまとめ

### II 成果と課題

#### 1 成果

##### 【研究授業に関して】

- ・本部会として中学生を対象に学級活動の時間を活用し研究授業を行った。「あってもよいちがい」や「あってはいけないちがい」について改めて考える中で，生徒の身近に存在する差別や偏見について気づくことができた。また，自らの知識や体験をもとに考え，生徒同士で交流（話し合い）する活動を通じて，一人ひとりの人権意識や感覚を高めることができた。
- ・人権教育の基礎となる「思いやりや優しさ・公正や正義」について授業（道徳）で扱った。偏見や差別が生まれる背景を知り，どうすれば偏見や差別をなくすことができるか児童自ら考えることができた。こうした学習を通じ今後の学校・社会生活に繋げられる心情や態度を育むことができた。

### 【研究内容・組織について】

- ・ 中学校の先生や新たに部会に入られた先生方が多くいらしたこともあり、小中の連携が図られ、新しい視点や感覚で研究を進められた。
- ・ 研究テーマを意識しながら、学校や児童生徒の実態に応じた授業実践を一人ひとり行うことができた。また、こうした実践を持ち寄り、情報交換を行うことで効果的な授業過程や指導法について学ぶことができた。

### 【臨地研修に関して】

- ・ 8月1日、笛吹市にある春日居郷土館を訪問し、企画展「わが町の八月十五日展」について笛吹市教育委員会の方から詳しく説明をしていただいた。改めて戦争の悲惨さや惨さ、平和の大切さを痛感した。こうした思いや史実をどう平和教育に結びつけていくか考える良い機会となった。

## 2 課題

- ・ これまでの研究成果を継続し、さらに発展・充実を図っていくために、部会の存続をどう図っていくかが大きな課題である。
- ・ 研究テーマを絞り研究を進めていく。また、授業実践以外の領域でも人権教育の視点を持ちながら取り組んでいく必要がある。

## III 成果物

### 1 指導演案

第3学年学級活動指導演案「ちがいのちがい」 永関 幸玄（山梨北中学校）  
◇ねらい：「あってもよいちがい」と「あってはいけないちがい」を考えることを通して、人間関係の中で「ちがい」について正しく理解し、決めつけや偏見に気付き望ましい人間関係の在り方を考え、個人の人権が尊重され差別のない社会を考えることができる。

第5学年道徳指導演案「その人にとっていちばんとは」 田辺 博幸（大和小学校）  
◇ねらい：偏見を持たず、進んで相手を思いやる心情や態度を育てる。

### 2 実践報告資料

人権教育実践「言葉の力」 岩下 城 （山梨小学校）

人権教育「P C (political correctness)

の視点で見た日常の言葉遣い」 平井 成二 （山梨南中学校）

平和教育「第五福竜丸展示館」の見学をとおして 日野原和貴 （八幡小学校）

### 3 提供資料

高添 勉 （東雲小学校）

- ・ 国際連帯資料「国連の学校給食プログラム」
- ・ 国際連帯資料「世界へのドアを開いてみよう他」
- ・ 道徳教育資料「道徳力 被災地と大都市の子は最低レベル」

（部長 田辺 博幸）